



# 学校だより

ゆたかに花さけ  
We can do it!

8月号

令和4年9月5日

横浜市立保土ヶ谷中学校

横浜市保土ヶ谷区釜台町3番1号 電話045-331-8521

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/hodogaya/>



## 私の夏休み

校長 工藤 祐嗣

8月28日、2学期の始業式を行いました。猛暑などのことを考え、生徒たちは教室でテレビ放映の朝会です。中学時代、私は二日三日前から何となく気持ちが暗くなったものです。そんな子どもたちも少なくなかったのではと思っています。朝会を終え、各教室を一回りしてきました。多くの生徒が明るく前向きな目をしていたなど感じ、安心しました。しかしいろいろな不安や悩みを抱えている生徒もいます。今行われている教育相談で担任としっかり話をして充実した実りある2学期にしてほしいと思います。

さて、夏休み・・・子どもたちはたくさんの学び、いろいろな経験をできたでしょうか。私も多くの体験をし、多くの経験から考えさせられた夏休みでした。

孫の誕生・・・娘の住むサンディエゴに行ってきました。7月29日に3人目の孫が生まれました。男の子の3兄弟です。彼らは海外で生まれ海外で育ちます。国籍は2つありいずれ自分自身で決めていきます。長男は5歳、次男は3歳です。兄弟喧嘩は英語、グディとも英語、マミーとは混ざります、しかしJ（私のことはジェイ！と呼ばせています。）とは日本語で話してくれます。まったく子どもの力はすごい！と感じながらそれぞれ3人が成長し、どのように日本とかかわりを持ってくれるのかを楽しみにぎゅっとハグして帰国しました。帰りの飛行場で自分の無知を経験しました。チェックインで尋ねられた言葉がどうしても理解できません。「バリー？バリー？」としか聞こえません。結局、係りの方がスマホで調べ解決しました。「あなたのキャリーバックの中にバッテリーは入っていますか？」と質問されていたのです。バッテリーの発音についていけませんでした。あ～情けない。

無言館にて・・・父の生まれたところであり、母が疎開したところでもある長野県の青木村、両親ともなくなりましたがこの場所は少年時代のいろいろな思い出が詰まった場所です。今年も足が向き、行ってきました。そして程近くにある「無言館」、ここは美術大学に通い、将来画家などを目指した若者のメッセージもった作品がたくさんあります。また、家族にあてた手紙なども見ることができ小さな美術館です。

志半ばで戦地へ行くことになり帰らぬ人となった・・・戦争のむごさや若者たちの叫びを感じながら、来るたびに声を殺して涙をぬぐう場所です。経験していないことを自分はどう感じ、どう伝えなければいけないのか自問します。平和な日本の継承のために生徒たちの学びを考えることは大事なことだと感じています。

災害についても同じことです。関東大震災 発生から今年で100年を迎えました。誰も経験はありません。そこをどうやって想像し、語って伝え、防災意識を高めていけるのかを学校という立場だけではなく、次世代に伝え、学び、に変えていかなければいけないと感じています。子どもたちの夏休みの経験が未来を変えていくことにつながることを期待します。